北海道倶楽部
毎月１回１日発行 定価８０円
公益社団法人北海道倶楽部
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-17-17 北海道東京事務所1 階
TEL 03-3581-4021 FAX 03-3581-4022
E-mail hkkd-clb@soleil.ocn.ne.jp
http://www.hokkaido-c.or.jp/

We Love Hokkaido 北海道 "NOW" KITAKARA

北海道情報紙 知らないこといっぱい！！

HOKKAIDO CLUB SINCE 1927

鈴木知事 新旧倶楽部会長と面談

「道の政策、協力惜しまない」 小林会長

鈴木直道・北海道知事が8月19、20日、**北海道倶楽部**の小林敬一会長（古河電気工業エグゼクティブ・アンバサダー）、川村隆名誉会長（前倶楽部会長、日立製作所名誉会長）と面談、道、札幌市がともに取り組む副首都指定などについて、倶楽部の協力を求めた。小林会長は「道の政策に協力は惜しまない。どんどん言ってきてほしい」と述べ、支援を約束した。





知事は同20日、古河電工本社（東京）に小林会長を訪問、道が推進する計画全般を説明した＝**写真上**。この中で、千歳市に進出した次世代半導体企業のラピダスを、道内の産業構造を変える起爆剤として高く評価。「ラピダスだけではなく、研究機関の誘致にも努力したい」などと力説した。

小林会長は「知事の話に共感した。倶楽部としてもきちんと対応していく」と応じ、積極的に協力する姿勢を示した。

知事は札幌市と取り組む、副首都指定について「道内は、今後、想定される首都直下型地震、南海トラフ地震などを含め、同時被災リスクが低い」と強みを強調。すでに道庁内に「副首都整備等準備室」、札幌市に「副首都整備等連絡調整班」が設置されており、今後、政府の副首都の決定に向け、努力する考えを示した。

一方、知事はこれより先の同19日、川村・前倶楽部会長と「アイオス永田町」で面談＝**写真下**、川村前会長を慰労した。

知事はラピダス進出、道・札幌市の副首都の指定に向けた、道の取組などを説明。また、うれしいニュースとして、12月から新千歳ーサンフランシスコ便が就航することなどを挙げ、「道民の悲願が実現した」と歓迎した。

川村前会長は鈴木道政を評価しつつ、「道内は人口減が進み、経済も厳しい。主力の農業など一次産業は、気候にも左右される」と道の対応を求めた。

道・札幌市、副首都申請へ 「代替機能の適地」 秋元札幌市長強調

道と札幌市は、大規模災害時に首都機能を代替する「副首都」の指定を目指し、国に申請する方針を固めた。東京から距離があり、同時被災するリスクが低いことなどを、メリットにあげている。札幌市に国の出先機関が集まり、周辺を含む交通インフラが充実していることもアピールする方針だ。

7月24日に成立した副首都関連法は、東京が大規模災害に見舞われた際、立法・行政機能を担う副首都を置くく、という内容。同時に人口や経済の東京一極集中緩和も目指す。政令指定都市と道府県が「連携協定」を結ぶか、政令市を特別区に再編することが条件だ。

札幌市の秋元克広市長は北海道新聞の取材に対し、首都直下型地震や南海トラフ巨大地震を念頭に「首都圏から離れている北海道は、首都の代替機能を果たす適地」と強調。札幌市と周辺には港や空港が複数あることから、「食糧、エネルギーの供給でも十分役割を果たせる」と述べた。

指定により、国の予算や民間投資を呼び込めるとの期待もあり、道と札幌市はすでに6月、副首都構想に関する「連絡調整会議」を設置。鈴木直道知事も「札幌市と連携して国に提案していきたい」と表明している。

副首都指定には大阪府、福岡県、愛知県などが意欲を示している。

交流のタベにぎやかに開催

会員ら60人が親睦を深める

厚谷夕張市長も参加 「来年3月負債返済完了」

会員らが親睦を深める**北海道倶楽部**の「交流のタベ」が8月4日夜、約60人が参加して東京・港区の銀座ライオン新橋店で開かれた。倶楽部が再建を支援する夕張市の厚谷司市長も参加、「来年3月には負債の返済が完了する見通し。これまでの北海道倶楽部の協力に感謝したい」と述べた。



談笑する小林会長（右）と川村名誉会長

「交流のタベ」は倶楽部恒例の真夏のイベント。ビヤホールの日の8月4日に毎年開催している。この日は小林敬一会長をはじめ、有末真哉理事長、川村隆名誉会長（前倶楽部会長）、小池明夫副会長ら理事が出席した。

あいさつに立った小林会長は7月末、発生した熊本地震の犠牲者に哀悼の意を表明、被災者らにお見舞いの言葉を述べた。

北海道の立ち位置について「食糧、観光、再生可能エネルギーなど日本を支える、北海道のポテンシャルは高い。半面、少子高齢化など問題にも直面しているが、倶楽部一丸となって支援し、道民の笑顔を取り戻したい」納孝之・道副知事が、鈴木直道知事のメッセージを代読した。

来年の倶楽部創設100周年を巡っては、夕張メロンをはじめ寿司、ウナギのかば焼きなどの料理が用意され、参加者は舌鼓を打った。各テーブルでは談笑の輪ができ、ある会員は「いろんな人と率直に話をすることができ、いいパーティーでした」。

イベント終了後、厚谷夕張市長自らが、お土産の夕張メロンを参加者に手渡し、夕張支援に感謝した。

と話した。

懇談では有末理事長の発声で乾杯。会場には、夕張メロンをはじめ寿司、ウナギのかば焼きなどの料理が用意され、参加者は舌鼓を打った。各テーブルでは談笑の輪ができ、ある会員は「いろんな人と率直に話をすることができ、いいパーティーでした」。

イベント終了後、厚谷夕張市長自らが、お土産の夕張メロンを参加者に手渡し、夕張支援に感謝した。

★北海道倶楽部会報は、北海道新聞社から記事、写真の協力を得て、作成しています。

10月7日（水）に交流イベント

北海道倶楽部恒例の「交流イベント」は、10月7日（水）午後6時から東京・千代田区のホテルニューオータニ地下1F「麗の間」で開かれる。

倶楽部最大の事業で、会員らが親睦を深めるとともに、倶楽部が取り組む北方領土返還などキャンペーンをアピールするのが狙い。高額商品などが当たる人気の福引抽選会もある。

参加希望者はメール（hkkd-clb@soleil.ocn.ne.jp）かファクス（03・3581・4022）で事務局へ。会費は1万5000円。

知事エッセー ～後志管内で～



北海道知事の鈴木直道です。今回は、後志管内の北海道留寿都高等学校への訪問について紹介します。

留寿都高校は、地域の基幹産業である農業と介護を学べる「農業福祉科」を全国で唯一設置しており、国家資格である介護福祉士の受験資格を取得できる高校として道央圏で唯一の指定を受けるなど特色あるカリキュラムで実践的な教育を行っています。

今回の訪問では、生徒の皆さんと福祉実習でのベッドメーキングなどを体験し、具体的な目標を持って取り組んでいる皆さんの姿を大変頼もしく思うとともに、治田校長から、「唯一無二のカリキュラムや生徒たち自身が考え、実践している取組を通じて、留寿都村や留寿都高校の魅力を全国に広めていきたい。」とのお話を伺うなど学校が地域の未来に向けて取り組んでいることを実感しました。



生徒の皆さんが、充実した学校生活を送り、北海道の未来を支える人材として活躍されることを心から期待するとともに、道としては、これからも、地域課題の解決に向け、関係する皆様と連携し、留寿都高校をはじめとした地域の特色ある取組を応援してまいります。

ふるさとの本ご案内 北海道新聞社

観て学ぶ、触れて感じるためのガイドブック
大地が躍動！ 日高・十勝の地形と地質
前田寿嗣 著 A5判 176頁 定価1980円
日高山脈はプレートが衝突してできた！ 十勝平野北部には厚い火山灰層が。身近な大地の成り立ちを実感できる21コースを紹介。

誕生から20年、ロングセラー絵本
北海道 わくわく地図えほん 第2版
文・絵 堀川真／北海道新聞社 編
A4変型判 48頁 定価1650円
子どもから大人まで楽しめる地図えほん。各地方の特産物、方言など情報がもりだくさん。巻末には「カントリーサイン」を収録。

北海道新聞社出版センター 〒060-8711 札幌市中央区大通東4丁目1
TEL 011-210-5744 受付 9：30～17：30（土日・祝日を除く） 価格は税込
出版センターにお電話いただければ直接手配もいたします(代引き・送料別途)
お求めは書店またはインターネットで